

同窓、丸山清光さん（70期）の新刊紹介

上原 昇（2組）

同窓 70 期、上田高校－明治大学の野球部で活躍した丸山清光さん（長門町出身、松戸市在住、朝日新聞 OB）がこの度、大変な本を上梓しました。

何が大変かというと、東京六大学野球が始まって 100 年を迎える今、1 世紀におよぶ膨大な関連諸データを 1 冊の本にまとめているからです。

本の題名は『東京六大学野球人国記 激動の明治、大正、昭和を乗り越え 1 世紀』（2024 年 2 月 26 日発行）です。

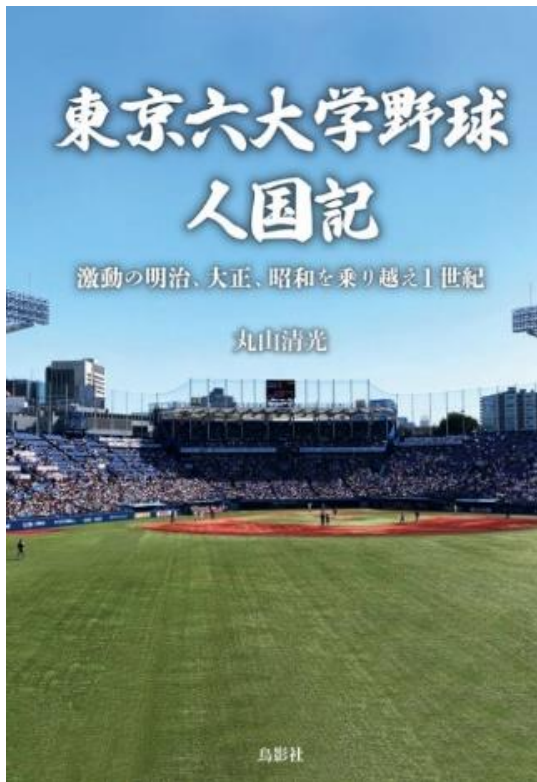
野球好きで六大学出身（早稲田大学）の私も、早速取り寄せて読みました。

丸山さんは 2 年半かけて、精力的に関連情報の収集を行い、大部（538 ページ）の本に仕上げました。新聞社勤めをしていたとはいえ大変なご苦労があったと思います。

ある識者が「東京六大学野球のエンサイクロペディア」と推薦しているのも頷けます。

本書は 5 章からなり、第 1 章 1878（明治 11）年からの黎明期で始まり、第 5 章の 1989（平成 1）年から今日までの安定期で終わっています。

特に第 4 章は我々世代の若い頃の話で、多彩な人間模様編が非常に興味深い内容になっています。



また、上田高校出身の著者ならではの、母校 OB 関係者についてもページを割いています。

野球殿堂入りしている宮原清（1 期以前、慶大）、櫻井彌一郎（1 期、慶大）の二人をはじめ、鷺沢与四二（1 期、慶大野球部監督）、山崎紀典（57 期、明大）、倉沢今朝徳（58 期、明大）、白井透（60 期、東大マネージャー）、渋谷稔（70 期、東大）、丸山清光（70 期、明大）、児玉光史（95 期、東大）といった人たちが登場します。

この 100 年で東京六大学野球に限らず、野球の世界も大きく変貌してきたことが本書を一読するとよく分かります。

野球ファンはもとより、特に東京六大学関係者にはお薦めの 1 冊です。（鳥影社刊、税込み 2970 円）

（2024 年 3 月 3 日記）

以上